豊田工業高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	保健体育ⅡB

科目基礎情報

科目番号	02201	科目区分	一般 / 必履修，選択必修（体）
授業形態	実技	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	情報工学科	対象学年	2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「ACTIVE SPORTS」（大修館書店）　「学生の健康科学」（鈴木製本所）／プリント　ビデオ教材		
担当教員	髙津 浩彰		

到達目標

(ア)バレーボールの個人スキルと集団スキルを実施することができる。
(イ)長距離走で決められた距離を走ることができる。
(ウ)結婚、妊娠・出産のメカニズム、母子保健について理解することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目１	バレーボールの個人スキルと集団スキルを理解し、実施することができる。	バレーボールの個人スキルと集団スキルを理解することができる。	バレーボールの個人スキルと集団スキルを理解することができない。
評価項目２	長距離走で決められた距離をできるだけ早く走ることができる。	長距離走で決められた距離を走ることができる。	長距離走で決められた距離を走ることができない。
評価項目３	結婚、妊娠・出産のメカニズム、母子保健について理解し、自分の将来について考えることができる。	結婚、妊娠・出産のメカニズム、母子保健について理解することができる。	結婚、妊娠・出産のメカニズム、母子保健について理解することができない。

学科の到達目標項目との関係

本校教育目標 ⑤ 技術者倫理

教育方法等

概要	２年後期はバレーボールを行う。バレーボールでは、学生の個々の能力に応じたルールで、味方同士が協力して作戦をたてて、集団的技能や個人的技能を活用して、攻防の仕方を工夫しながら勝敗を競い合う過程や結果に楽しさや喜びを味わうことができるようにする。また、生涯スポーツとして活用できるように段階的にスキルアップする。持久力の保持増進のために長距離を最大限に努力して走ることができるようにする。保健講義では、受精・妊娠・出産のメカニズムを理解し、その時期またはその後の母子の健康のために必要な社会的制度、心理的サポート、健康の留意点を学習し理解する。
授業の進め方・方法	
注意点	ジャージを着用し、使用施設にあったシューズを使用する。ピアス、指輪、ネックレス等は外すこと。携帯電話・スマートフォンは授業中に扱わないこと。爪は切っておくこと。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	インディアカゲーム	インディアカを使って片手で撃つためのバッティングコントロールができる。
		2週	ヘルスバレーボールゲーム	大きなボールを使ってバレーボールの基本スキルが練習できる。
		3週	ソフトバレーボール	ソフトバレーボールのゲームでサーブとレシーブの練習ができる。
		4週	ソフトバレーボール	ソフトバレーボールのゲームでスパイクとブロックの練習ができる。
		5週	ソフトバレーボール	サーブ・レシーブ・スパイク・ブロックをゲームで実施することができる。
		6週	ショートコートバレーボール	いろいろなスパイク方法をゲームで実施することができる。
		7週	９人制ゲーム	フルコートで９人制バレーボールのゲームをルールを理解し実施することができる。
		8週	９人制ゲーム	フルコート９人制バレーボールでサーブ・レシーブ・スパイク・ブロックをゲームで実施することができる。
	4thQ	9週	６人制ゲーム	フルコートで６人制バレーボールのゲームを簡単なルールを理解し実施することができる。
		10週	６人制ゲーム	フルコートで６人制バレーボールのローテーションについて理解し実施することができる。
		11週	６人制ゲーム	フルコートで６人制バレーボールのフォーメーションについて理解し実施することができる。
		12週	６人制ゲーム	フルコートで６人制バレーボールのゲームをチームで協力して実施することができる。
		13週	長距離走（男子5000m、女子3000mタイムトライアル）	決められた距離を走ることができる。
		14週	若者の性と健康　結婚と健康	若者の生の考え方と結婚について理解することができる。
		15週	受精妊娠出産のメカニズム　母子保健	受精・妊娠・出産のメカニズムと母子保健制度について理解できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	後8,後11
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	後9,後12
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	後7,後10

評価割合

	耐寒マラソン	保健課題	実技課題	合計
総合評価割合	20	20	60	100
基礎的能力	20	20	60	100